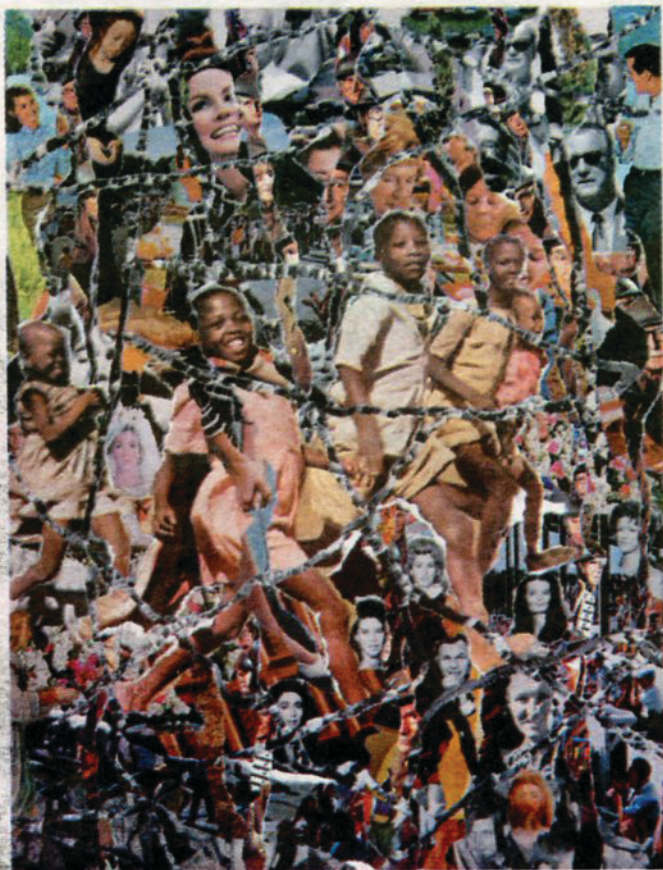


横尾忠則 GOOD DAYS 51



コラージュ総決算NYで開催

正月以来ずーっとコラージュ作品を作っていた。そして4月半ば頃までに30点完成した。この30点の新作に旧作を加えたコラージュ展をチエルシーのフリードマン・ベンダー・ギャラリイで6月8日まで開催中だ。10年前にも一度ロイボイド・ギャラリイで初めてのコラージュ展を行ったことがある。だから今回はニューヨークで2回目のコラージュ展ということになる。

国内では美術館のタブローの個展の際に一部発表されたことがあるが、今回はコラージュ作品の総決算展という感じで、それがニューヨークで発表することになったのはなんとも嬉しいかぎりである。フリードマン・ベンダー・ギャラリイではすでに過去2回の個展を開催しており、今回で3回目ということになる。画家に転向する80年以前はコラージュによるポスターを制作してきたが、現在



FRIEDMAN BENDA

515 W 26th St, New York NY 10001

tel 212-239-8700 www.friedmanbenda.com

週刊NY生活TV

今週号のデジタル版
www.nyseikatsu.comで
動画ニュースが見られます

することはほくにとつては非常に不自然なことでもある。思考を優先するというよりも、むしろ自分の生理に忠実であろうとした結果が複数のスタイルを生むことになるからだ。ただ今回のコラージュ作品に関してはそんなに多様なスタイルの表現はしていないつもりである。せいぜい二、三種類かな? コラージュはほくにとつてはシュールレアリズムのデバイズマンに似ていて、おおよそ常識では遭遇しないもの

横尾忠則

2つの大陸 2012年 紙にコラージュ 405×309mm

のコラージュ作品はほくにとつてはデザインから分離した作品でむしろタブロー的な世界に近い表現である。旧作はかなり物語性の強い傾向の作品が中心になっているが、新作はむしろ物語性や文学臭は排除した構成的な作品になっていると思う。もともとほくの中には複数の性格があるように、作品に複数の様式が宿っているように思う。野球というとダルビッシュのように球種が多いのを特徴としており、その都度異なったタイプの作品が生まれる。ほくの中に複数の「私」がいるのだが、複数の「他者」といった方がいいだろう。固定したスタイルで自分を特定

することはほくにとつては非常に不自然なことでもある。思考を優先するというよりも、むしろ自分の生理に忠実であろうとした結果が複数のスタイルを生むことになるからだ。ただ今回のコラージュ作品に関してはそんなに多様なスタイルの表現はしていないつもりである。せいぜい二、三種類かな? コラージュはほくにとつてはシュールレアリズムのデバイズマンに似ていて、おおよそ常識では遭遇しないもの

同士を平置させることでその場に異化効果を起こし、その両者の間に生じる不思議な関係を画面の中で連鎖的に増幅させていくものだと考えている。このような発想は日常の多くの思考とも共通してお

